



温泉が自然に湧出する黒部・祖母谷(T)



ジオパークの構成資産(地球を要すピラミッド)、ジオパークの活動の3要素

一方、ジオパークを訪れる旅行者から見た場合は、訪れる地域の地形・地質遺産を中心とした自然と人の暮らしや文化などの関連性を感じ取られる、見どころを巡るジオツーリズムを楽しむ場所になる。

ジオパークの見どころ、ジオサイト

ジオパークには、素晴らしい景観や地層、地質などが存在する場所、博物館などを指す「ジオサイト」と呼ばれる見どころが点在している。実際に山や川、崖などを見て、手触りや体感、迫力などから、地球活動やその土地の大地の成り立ちに気づき、地球から生まれた多様な地形・地質が、その地域の生態系や歴史・文化などの人の暮らしにどのような影響を及ぼし、どのように関わっているかを楽しくみながら学ぶことができる見どころとなる場所である。

日本のジオパーク

現在、「ジオパーク」地域が全国に36(赤字)地域あり、うち7地域は世界ジオパーク(★印)である。青文字はジオパークをめざしている地域である。(2015年8月末現在)



鳥瞰図で見る北陸のジオパーク(北海道地図株式会社「ジオアート」より)

ジオパークとは、地球活動によりもたらされた「自然」と「人」が交わる場所

文◎恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会 畑中 健徳

写真◎恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会(K)、白山手取川ジオパーク推進協議会(H)、立山黒部ジオパーク協議会(T)

北陸三県にあるジオパークをそれぞれの地域単位で見ただけでは、異なるが、地球や世界、日本といった中でとらえると、北陸のジオパークには共通した自然の資源などがたくさんある。北陸のジオパークに共通するテーマを、大地の成り立ちや地形・地質、気候、生態系サービス、文化、産業などの点から考えた場合、「山」、「水」、「食」、「災害」、「過去からの贈り物」の大きく5つのテーマに分類でき、北陸のジオパークの魅力や地形・地質を中心とした「自然」と「人」の関連性について示すことができる。その5つのテーマから、北陸の3つのジオパークを掘り下げてみたい。

ジオパークの二つの顔

ジオパークは、対象となる人によって二通りの側面を持つといえる。ジオパークの地域に住んでいる人たちから見た場合、地域の大地の成り立ちや価値を学び、科学的に価値のある地域の地形・地質などの自然を「保護・保全」しながら、「教育」や「ジオツーリズム」に活用して、地域の「持続可能な発展(Sustainable development)」のために取り組みが行われる場所を指す。

白山手取川、立山黒部のそれぞれのジオパークでは、テーマに沿ったジオサイトが存在しており、さまざまなジオツアーやエコツアー、自然観察会などが行われている。より深くジオパークを楽しみたい、知りたいという方には、ガイド付きツアーをお勧めしたい。まずはジオパークを難しく考えずに、「地球上にあるものをまるごと楽しむ公園」とジオパークをとらえていただいて、本特集で北陸のジオパークの共通するテーマにおけるストーリーを楽しんでもらいたい。そして、地球活動によりもたらされた「自然」と「人」が交わる場所と言えるジオパークを訪れていただければと思う。

はたながたけのり
勝山市ジオパークまちづくり課勤務、恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会事務局員。



みずはくによる布施川での魚の観察会の様子(T)



舟川べりのチューリップと桜と北アルプス(T)



白山主峰・御前峰で迎える御来光(H)



手取峡谷の縮ヶ滝は迫力満点(H)



勝山の恐竜化石発掘地で地層をスケッチ(K)